

# 原子力学会 北関東支部総会 特別講演

日時： 平成22年4月23日（金） 16:00～17:00  
会場： テクノ交流館リコティ 多目的ホール  
(JR常磐線東海駅東口前)

テーマ： 次世代軽水炉の開発について

講師： エネルギー総合工学研究所 原子力工学センター  
理事・センター長 田中 隆則 氏

次世代軽水炉開発のナショナルプロジェクトが、メーカーを主体として、電気事業者、国とが一体となって進められています。これは、ABWR、APWR開発以来の20年ぶりの新型炉開発プロジェクトになります。

ターゲットは2030年前後に見込まれる大規模な代替炉建設需要への対応で、高い安全性、経済性、信頼性等に優れ、世界標準を獲得し得る次世代軽水炉を開発することをねらいとしています。そのため、開発においては、炉心取出平均燃焼度70GWd/t、プラント寿命80年、稼働率97%など、チャレンジングな開発目標が設定されています。

平成20年度からはエネルギー総合工学研究所が中核機関となり事業が進められており、この2年間において、プラント概念の成立性について見通しを得るための概念設計検討及び要素技術開発が進められ、基本仕様を決定する節目をむかえています。講演においては、開発のキーテクノロジーである、濃縮度5%超ウラン燃料開発、燃料被覆管材料開発、免震技術開発、炉内構造部材開発、水化学技術開発、蒸気発生器伝熱管材料開発などの要素技術についてその検討状況ならびに今後の進め方についても報告される予定です。次世代軽水炉開発の現状を知る絶好の機会と思いますので多数のご参加をお待ちしております。